その一

選ばれたヒツジは

きみは
つまるところ
一頭の――
いや
はじめから
はなそう…

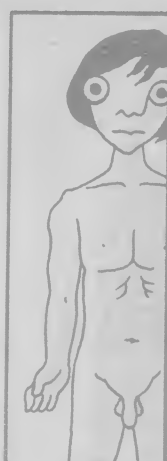
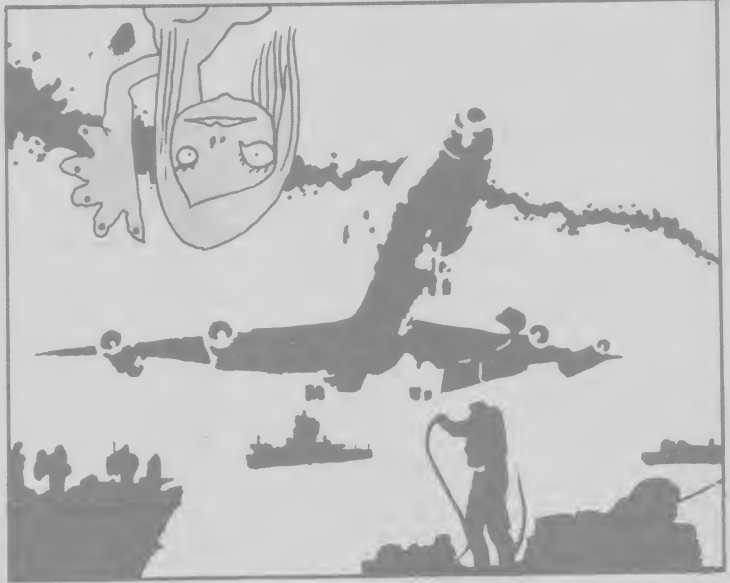
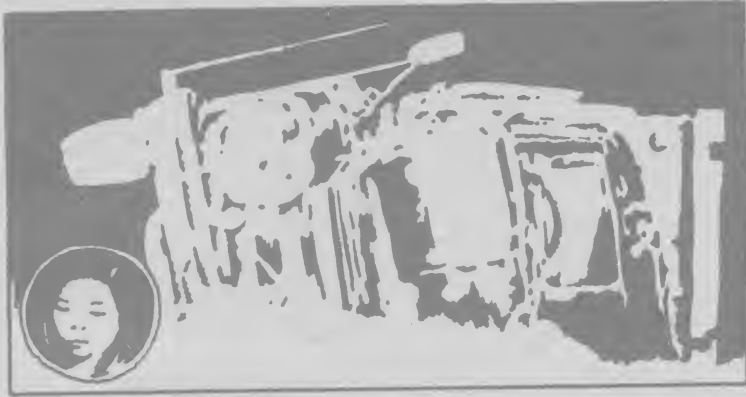
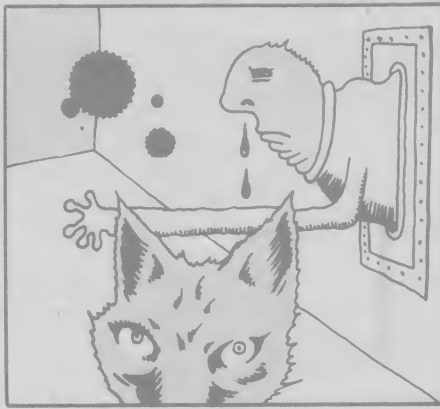
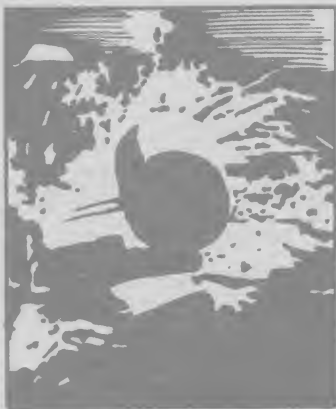
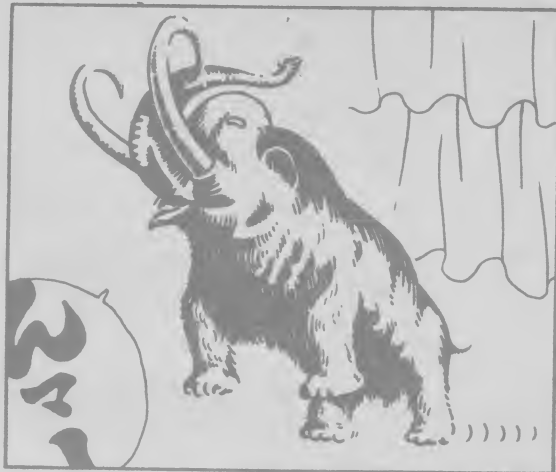
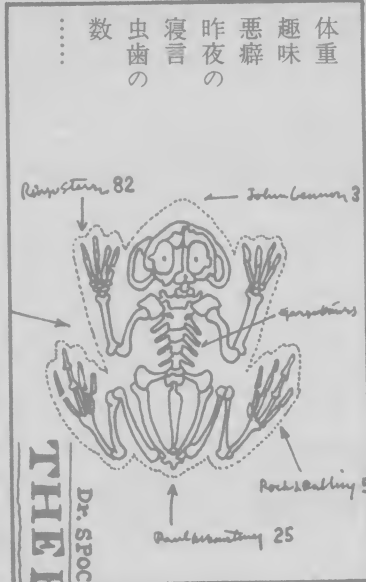
きみが
電話ボックスで
たとえば
〈猫の眼に愛を〉
と　いったふうな書物を
読んでいる

すると
秩序省の役人が来て
タイホする　と言うのだ

理由は？　と訊くと
公共物占拠
家宅侵入　加えて
通信事務の妨害

え
何ですって ときみは
訊き返すが
だまって きみを 車へ
押し込むわけだ
う

暗い廊下の
どんづまり
鉄ごうしの部屋で
きみはヒツジだ
そこでは
英雄主義と悲惨とが
ザコ寝しているのだった

そして
彼らは
くちぐちに
「決して
しゃべるな」
「黙否権」と
哀れなきみに
忠告哀願する

しらなイ
しらなイ
け

取調室
愛の献血を！
暴力を
うけたみつけた
一一〇番
暴力追放

光まはゆい取調室
やさしいブチョウは
やさしいしぐさで
レコードをかけたが

黙否権も何も
あったもんじゃ
ない！
別にゴウモン
するわけじゃ
ない！

んマー

勿論　きみは　約束通り
おし黙ったままなのだ

しー

ブチョウは
なんでも
しっている！

つまり
調べはとっくに
ついていた
わけだ

N7
2A
P
0.02
B
Coca-Cola
Coke
az
8
S
6
138h
923R
JY
K
m
5
43

ブズズ…
やさしい
ブチョウは
レコードを
しまうと
やさしい
しぐさで
きみに
紅茶をすすめ
テレビでも
みてゆくように
と　言う
（カラーだよ）
準備
完了！

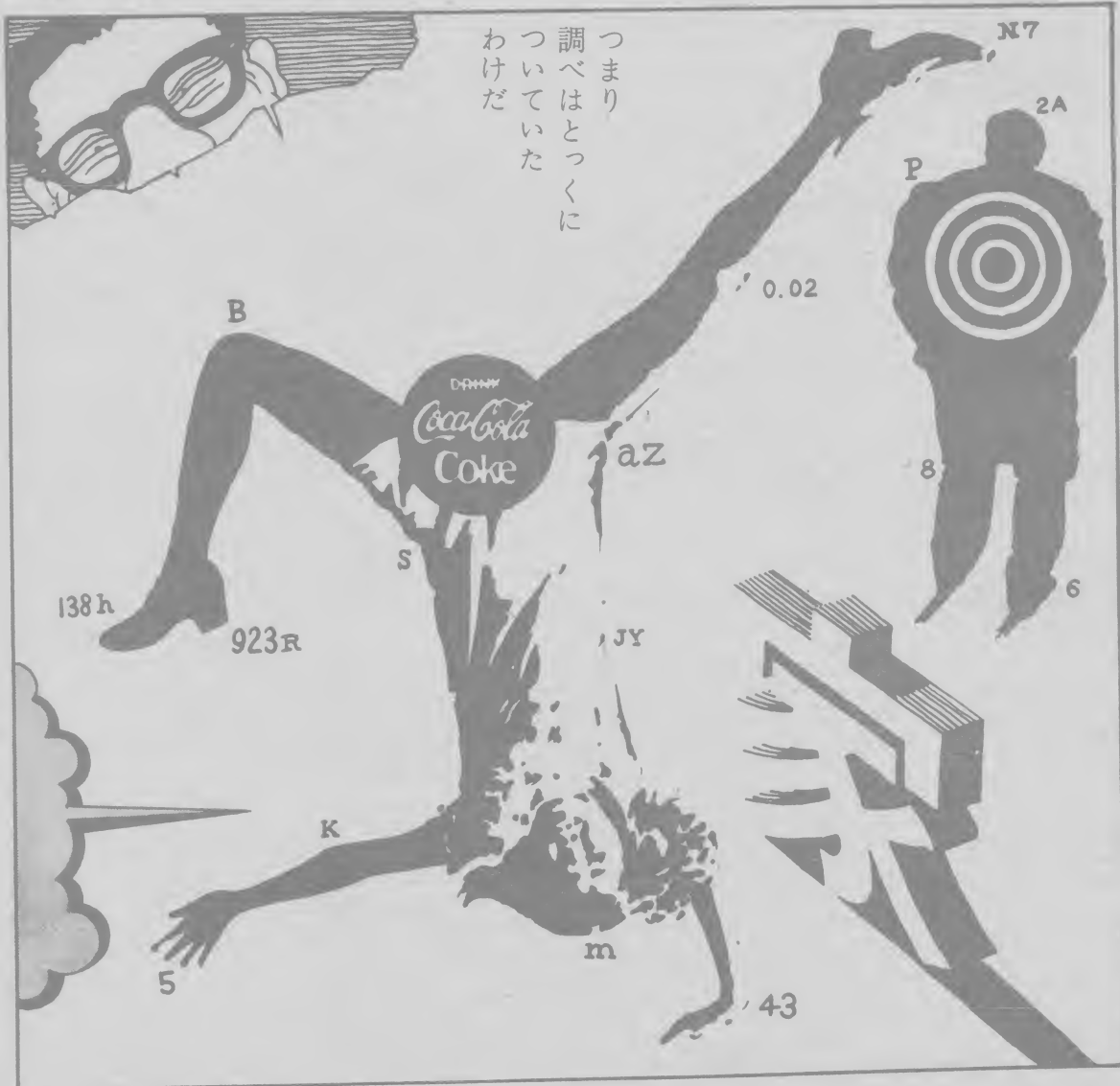
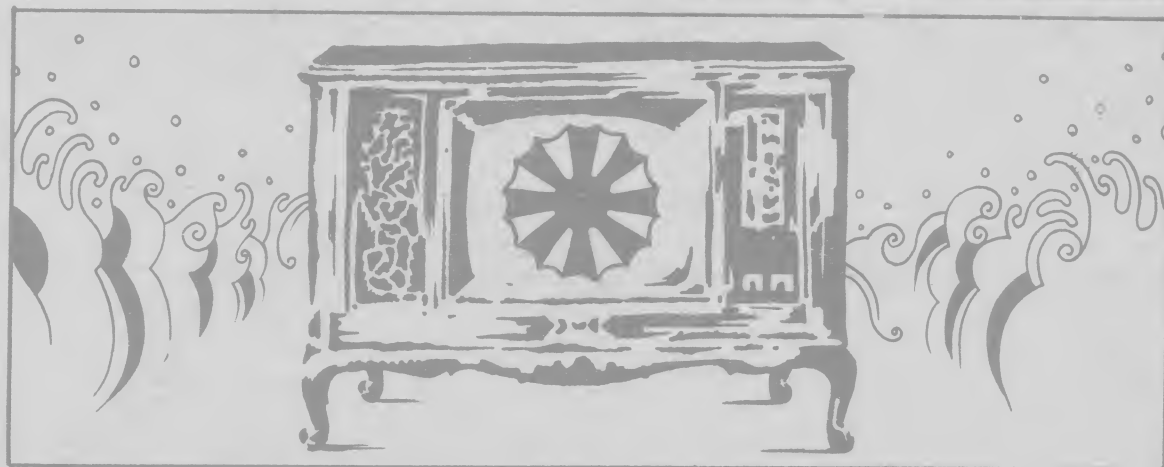
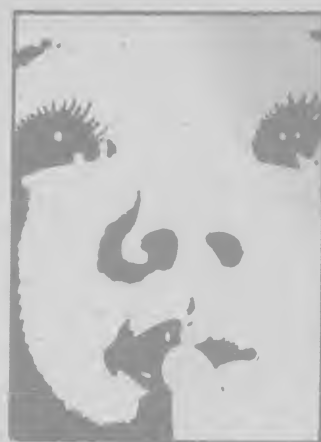
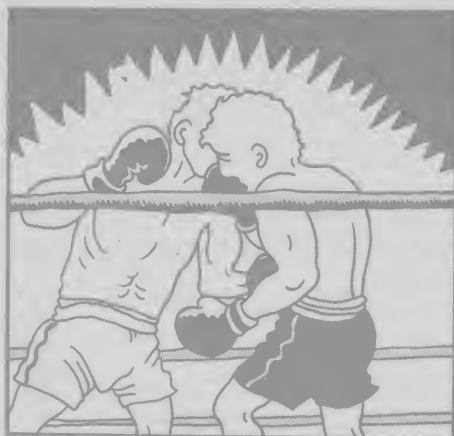
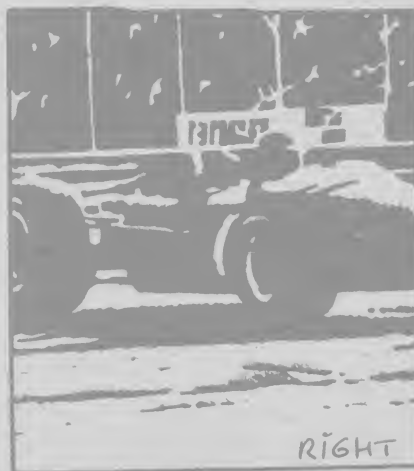
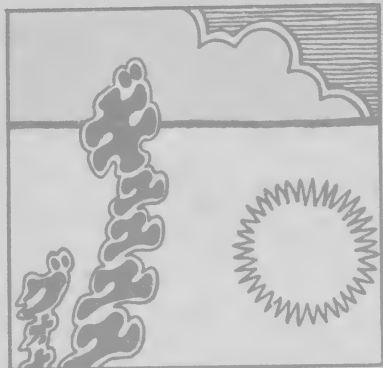
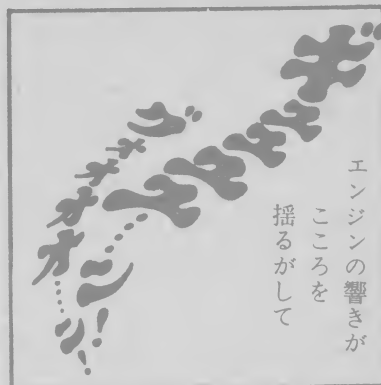
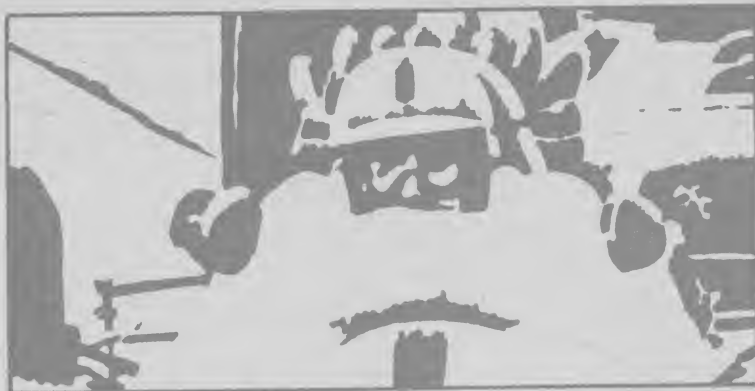
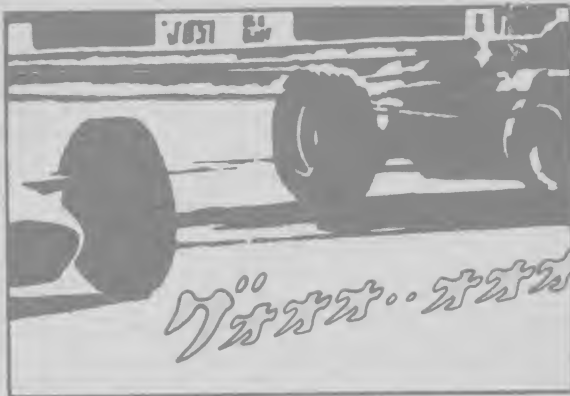
そうだ
きょうは
GPレースの
宇宙中継だ
エンジンの
響きが
画面を
揺るがして
きみと
ブチョウは
ならんで
すわり
（削除）

HON

WRONG

RIGHT

は

エンジンの響きが
こころを
揺るがして

ギュ
グオオオ・・オオオ
ハッハア…
ハ…ハア
ハアハア
ハア……
ハアッ　ハア…
ハア…ハア
ハアッ
………
ハアハア
………
ハッハア
きみとブチョウは
ソファにかさなり
・・・・・
デッドヒートに
すすり泣く！

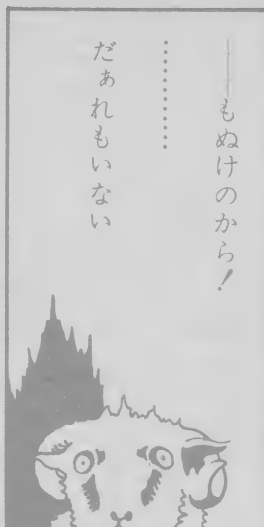
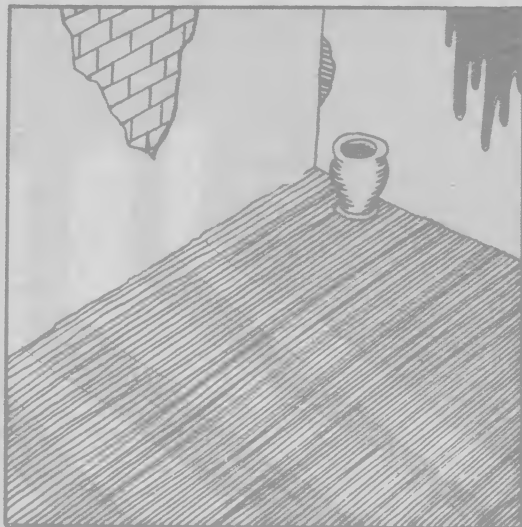
ゴールイン
ヴォオオオオ

それから
きみは
もういちど
こうしの
部屋に
戻るわけ
だが

――もぬけのから！
…………
だぁれもいない

ルンペン
も
インバイ
も
マンビキ
も
カクメイカ
も
チョウセンジン
も
ウチュウジン
も……
シマッタ……

（誰モイナイ♪
誰モイナ～イ
………
信ジ♪
ラレナイ
手品ノヨウネ……）

シュコロ!
シュコロ!

きみはそのとき
はじめて
限りない
悔恨と
屈辱感に
身悶えして
セメントの床に
ぶっ倒れるのだが

ところで
きみは
審判の日

偽証しない勇気が
あるかね？

End